

響



ひびき

東信教育事務所
〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
TEL.0267-31-0251
FAX.0267-31-0140



令和3年3月11日
No.9

放課後の昇降口に響く、
またね。
また明日ね。



ひびき。

響 第9号「ひびき」 -もくじ-

1. ご挨拶	P 2
2. 教師は学校で育つ！こんなよさがある！ これからの初任研メンター方式	P 3
3. やりきった「実感」と次への「一歩」 初任者研修1年間を終えて	P 4
4. 先生方の協力があったからこそ ～第3回研究主任研修会～	P 5
5. 子どもの視点からの授業改善に学ぶ ～学びの改革フォーラムから～	P 7
6. 令和3年度東信教育事務所主催の研修会等の予定	P 8
7. 生涯学習課より	P 9

今年もたくさんの教室を訪問させていただきました。ありがとうございました。

そこには、考え合ったり、伝え合ったりして学んでいる子どもたちに温かい視線を向けながら、学ぼうとしている先生の姿がありました。そして、そんな先生と子どもたちとのひとつひとつのかかわりの中から、私たちは教えられてきました。

明日に響く、確かな今日を積み重ねてこられた一年間でした。





令和2年度 東信教育事務所 年度末のごあいさつ



東信教育事務所 所長 池田 隆義

今年度も残りわずかとなりましたが、令和2年度は「新型コロナウイルス感染症」に振り回され続けた1年でした。過去に例のない対応で校長先生はじめ先生方には本当に大変な1年でした。しかし、別の見方をすれば、今回は仕事を見直す大きなチャンスでもあったわけです。世の中には、長い間の慣習やしがらみの中でなかなか見直しができないものが数多くありますが、そうしたもののでも、今年度は中止を余儀なくされたものが数多くありました。多くのことが犠牲となり、先生も子どもたちもたくさんつらい思いをしてくれました。しかし、今までは、当たり前のこととしてやってきたことでも、一度中止にしてみるとそんなに影響のなかったもの、また、それにより負担が軽減したものはなかったでしょうか。長年継続しているものは、内容は見直すかもしれませんが、やめるという検討はなかなかされません。今までずっとやってきていることだからとか、周囲から批判されるということで、廃止の検討はなされないままです。一方で、社会の目まぐるしい変化により新たな対応が日々増加しており、現場は飽和状態で、肝心の児童生徒のための時間が減らされたり、時間外に夜遅くまでかかってこなすということになってはいませんか。黒船の来航によって日本が大きく変わったように、外的要因によって社会が大きく変化することはよくあります。今はまさにその時ではないでしょうか。今こそ、思い切って断捨離し、今この時代に本当に必要なことに集中して取り組む。それが最高の成果を上げることにつながるのではないのでしょうか。

学校教育課 課長 森泉 雄二

学校の当たり前を見直し、子どもたちに何が大切かを問い直す1年となりました。その集大成が卒業式。先生方と子どもたちの創意を尽くした卒業生へのおもいが溢れる式が各校で行われることでしょう。

本年度の学校教育課の諸事業へのご理解ご協力に感謝いたします。事務所だよりも学校のニーズに答えられるよう、発行時期を考えたり、定期発行に加え、ショート通信・校長教頭通信・研究主任通信など多様な形で発信しました。どうでしたか？

次年度重点是次の2点、ご利用ください。

- 1 若い先生方や研究主任への支援
- 2 新しい時代に対応した研修の充実
 - ・ ICT入門研修
 - ・ 新学習指導要領に対応する評価研修
 - ・ 学びの改革実践校ミーティング

生涯学習課 課長 白鳥 郷史

暁、東雲、曙…夜明けには様々な表情があります。突然、災害や災難に襲われることがあるかもしれませんが、きっと、東雲の光が差し込みます。

感染症を通して人権の大切さが語られ続けた一年でした。それは人と人の繋がりを考える時間でもありました。ICTの活用、少子高齢化により社会・学校の在り方は、変わりました。

コミュニティスクールを機能させ、インターネットを活用することが全ての人々に求められるのでしょうか。人と人が繋がることで、全ての課題は解決するといわれています。

次年度の事業も、誰もが生涯を通じた学びと育ちを目指す環境づくりに努めます。一年間、ありがとうございました。



学校ごとに様々な像が子供たちを迎えていました。

考える
部屋

教師は学校で育つ！こんなよさがある！ これからの初任研メンター方式

今年度、校内の全職員体制で初任者を育てる初任研メンター方式が試行されました。上田市立第四中学校のメンターリーダー（内山和久先生）と初任の先生方（福永和輝先生、岩崎有里先生）に、メンター方式で行う初任研のよさについてお話をお聞きしました。

初任研メンターチームと役割（初任者：福永先生）

内山先生	教務主任	メンターリーダー
A 先生	研究主任	社会科の授業づくり
B 先生	学年・係主任	一般指導・集団づくり
C 先生	学年副主任	生徒指導・集団づくり
D 先生	人権教育係	人権教育



メンター方式の感想、
初任研OJT研修の内容
についてお聞かせくだ
さい。



🍀 全職員で育てている実感、 そして職員も学ぶ機会へ

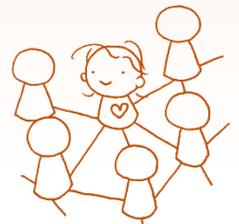
内山先生：

大変よい方式だと思います。初任研メンターチームは、授業づくりや生徒指導など、校内の先生方の得意分野を生かしたメンバーで構成して初任者への指導・助言を行いました。その点からも全職員で育てている実感がします。その一方で、子どもの見方や教材研究など、私たちチームのメンバーの方が初任者と学ぶ機会を与えていただいていることにも気がきます。

🍀 複数の職員の視点から学ぶOJT研修※

内山先生：

本校では、OJT研修として、社会科や国語科教科部会、キャリア教育部会、学習係部会などを期間を決めてわたって研修を行えるようにしました。テストの作成や採点、評価についての研修はもちろん、複数の職員の様々な視点から意見を交わして学ぶことができることもOJT研修のよさだと感じています。



先生方とはどのような
関わりをもてる研修
となりましたか？

🍀 相談しやすい環境と実践につながる研修

福永先生：

些細な悩みでも相談できる環境があることがありがたかったです。様々な先生方に授業のこと、生徒のことを相談できる安心感がありました。教科指導など、メンターチームの中に、聞きたいことに答えていただけるベテラン先生や様々な経験年数、立場の先生方がいたことも勉強になりました。

岩崎先生：

私は給食委員会の担当で、OJT研修では係の先生方から給食指導についてのご指導をいただきました。コロナ禍ということもあり、特に衛生面への配慮について学ぶことが多かったのですが、研修で学んだことを実際に係として実践できる点で自分の成長につながると感じました。

※初任研OJT研修（On the Job Training）

授業づくり等についての悩みや課題について、初任者が初任研メンターチームや校内の研究部会、教科会、係会等の場で相談しながら、指導や助言を受ける研修。

初任者の先生が、多くの先生方と関わり、支えていただいていることに安心感を感じながら研修を重ねていることが分かります。この支え合う関係が次の年には一層磨き合える関係へと発展していくことでしょう。これまでの指導教員とじっくり行う研修のよさと同様に、校内体制や先生方の得意分野や経験を生かしながら初任者と学び合える“よさ”がメンター方式にはありそうですね。





やりきった「実感」と次への「一步」

～初任者研修 1年間を終えて～

1月26日に2年次、2月2日に1年次のプログレス研修がオンラインで行われ、一年間を振り返りました。今年度の初任者研修は、新型コロナウイルス感染症対応により、分散やオンラインでの実施となりました。

2年次プログレス研修

2年目の先生方は、1年目の成果と課題を基に、よりよい学級経営等を目指して取り組んだ1年間を振り返りました。



中学校 A先生

私の担任する学級は一見まとまりがないようにも見えます。様々な個性をもった生徒が「お互いは違う」ということを良く分かっていて、認め合うことができると感じます。それは私が支援したというよりも、生徒たち自身がつくってきた雰囲気だと思っていて、そんな生徒たちを尊敬しています。こんな雰囲気の関係性をこれから出会う生徒たちがつくれるよう、1人1人の成長の過程に目を向けて寄り添っていきたいと思います。

2年目の先生方からは、昨年度より少し余裕をもって取り組めたというお話が聞かれました。A先生は、子どもたちとじっくり向き合い、子どもたちのありのままの姿を捉えること、そして、その姿から子どもそれぞれの存在、育ちを大切にすることを大事に実践の積み重ねてきたことを感じることができました。

1年次プログレス研修

初任者の先生方は、2年目の先生の話聞き、今年度の実践発表と自己課題の振り返り、2年目に向けての課題設定を行いました。



特別支援学校 B先生

私は、自己課題を「子どもが自ら動き出すまで待つ」に設定し、子どもをよく見る力をつけていきたいと考えました。年度当初は、何かしなければという気持ちが強く支援しすぎたため、子どもにとって「この先生はなんでもやってくれる人」になりつつありました。そこで2学期以降は、本当に必要な時に支援をするために再度、子どもをよく見ることから支援を考えることに取り組みました。

その結果、3学期は子どもが自分から動き出し、活動に取り組む姿が増え、「自分でできた」を感じ、満足した表情がありました。一緒に過ごしてきた私も喜びを感じ、「先生になってよかった」と感じた瞬間でした。来年度は、先輩の先生の話にもありましたが、心に余裕をもって子どもに接することができるようにしたいです。

1人5分という短い発表になりましたが、B先生のような、自己課題解決に向けて試行錯誤を重ねてきた確かな歩みを感じられる発表を、たくさん聞くことができました。



1年間の研修を終えて ～初任者の決意～



同期の先生方や先輩の先生方の話もどちらも共感できる部分がたくさんあった。自分と同じような悩みや課題等がある先生方がたくさんいて、自分も負けずに頑張りたいと思った。2年目も1年目のような必死な気持ちや、初心を忘れずに頑張りたい。



子どもの育ちのために自分に何ができるのだろうと悩み、反省を繰り返しながら実践を重ねた1年間を語る1年目、2年目の先生方がたくさんいました。忙しい日々の中で、ふと立ち止まって子どもをみたとき、その姿から育ちを実感じ、喜びを感じたお話もありました。さらにそこで満足することなく次の自己課題を据え、さらに実践、研修を積み重ねていこうとする姿から、教師として、もっとこうしたいという前向きな気持ちを感じられ、私たちもうれしくなりました。





先生方の協力があったからこそ

～第3回研究主任研修会より～

第3回研究主任研修会は、98名の先生方をオンラインでつないだ、今年度最大規模の研修会となりました。今年度の各校の取組を振り返り、来年度の研究推進に向けて、他校の研究主任と情報交換を行いました。

実践発表では、第2回研究主任研修会のアンケートで、先生方から要望の多かった「校内の研究推進」「評価に係る研究推進」について、2名の先生にご発表いただきました。

「チーム学校」での推進 御代田中学校

「評価に係る研究推進について」発表をいただいた、御代田町立御代田中学校の木野瀬正典先生は、第2回研究主任研修会で得た学習評価に関する情報を、全職員に報告したいと考えました。そこで、東信教育事務所にゾーン訪問を追加要請し、以下のように指導主事と協力しながら、評価に関わる職員研修会を実施しました。

第2回研究主任研修会

- ・学習評価についての研修（木野瀬先生参加）

学習評価の職員研修の推進、計画、相談

- ・ゾーン訪問1回目：指導主事1名訪問
（木野瀬先生、研究副主任、教頭先生との懇談）

木野瀬先生による職員研修・質疑応答

- ・ゾーン訪問2回目：指導主事2名訪問
（学習評価の在り方の説明・教科別演習）



木野瀬先生が大切にされたことは、評価規準を作成するにあたり、まず「自分でやってみる」ことです。職員研修で、教科別演習を行う際には、専門教科である理科の評価規準をたたき台として作成し、それを基に全職員で新学習指導要領の趣旨を共通理解し、各教科の評価規準を作成しました。その中で校内の先生方から次のような声があがったそうです。

先生方から出された意見

- ① 新学習指導要領の『主体的に学習に取り組む態度』の評価の趣旨を全職員で共通理解したい。
- ② 評価規準を簡素化し、よりの確に評価できるような規準を作成した方が良い。
- ③ 『思考・判断・表現』の力を測るためにはテスト改善も一緒に行っていく必要があるのではないかと。



これらの意見や課題を踏まえ、御代田中学校では、今後も評価に関する研究を続けていくそうです。木野瀬先生は「評価の準備も研修も大変だったけれど、ゾーン担当指導主事の訪問から、校長先生や教頭先生が後押しをしてくれ、周囲の先生方が協力してくれたからできた」と語っていました。

木野瀬先生が、職員研修を計画・実行し、手ごたえを感じる事ができた背景には、校長先生や教頭先生、校内の先生方の協力があったからこそです。研究主任の先生が一人で頑張るのではなく、「チーム学校」で取り組むことで、授業改善や研究推進が円滑に進んでいきますね。



「校内の研究推進について」発表をしていただいた、上田市立塩尻小学校の千野周先生は、研究主任として、以下の3つを大切に考えています。

★ 研究を推進する上で大切に考えたこと

- ① 「職員研修会=つまらない」とならないものにしたい。
- ② 研究授業は苦勞をするけれど、教師として成長できるものにしたい。
- ③ 授業も研修も、終わった後の振り返りを大切にしたい。



そして、これらを実現するために、

★ 実践したこと

- ① 先生方が語り合うことができるような研修を計画する。
- ② 過去の優れた授業実践からヒントを得てそれをベースに子どもにとってよりよい授業を検討する。
- ③ 授業や研修後、授業者自身が振り返りを行う機会を設定する。

を実践し、「授業研究会」「学級経営」「信州型UD」「特別の教科道徳」等、計11回の校内研修を行ってきました。現在は、先生方が今年度行った授業実践から、他の先生方に紹介したり、自分で振り返ってみたい授業に関して、授業の様子や児童の学習カードなどをもとに、各自まとめを行ったりしているそうです。

千野先生はこの1年間、研究を進めてきて「先生方が職員研修会の場で、自分の思いを語っていただけたことが良かった」「自分も楽しんでできた」と語っていました。

塩尻小学校では、ミドルリーダーである千野先生が中心となり、例えば「学級経営」では初任者の抱える悩みや課題などを中心に、様々な角度から全職員がつながり合って考える研修をつくってきました。その中で、ベテランの先生方も自己の実践を振り返ることができ、互いに教師として成長できる研究会となり、千野先生も研究推進の実感を得られていました。



Zoomを使った研修会が、新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに、広く行われるようになってきました。今後、さらにICTの環境が整備されることにより、ますますその需要は高まっていくと考えられます。以下はZoomによる研修会に参加された先生方の声です。



🗨️ これほど大掛かりな研修会でもインターネットを使ってできてしまうのは驚きでした。全体で集まった研修ができなくても、こうして情報交換ができたことはとてもよかったと思います。

🗨️ 研究主任は、やりがいのある役割ですが、時にとて孤独なので、今日、同じ立場で同じ思いで頑張っている先生方とお話できたのは、本当にうれしく、また頑張ろうと思えました。Zoomを使って、このように集まることができるのは、とてもありがたく、もっと活用したいと思いました。

インターネットの接続が不安定で、残念ながらグループ協議に参加できなかった先生方も出てしまいました。こうしたトラブルへの対応や後のフォローについては、課題として考えています。



子どもの視点からの授業改善に学ぶ ～学びの改革ミニフォーラムから～

2月1日、オンラインで「学びの改革ミニフォーラム」が開催されました。県内の信州型UD推進校の実践発表や國學院大学教授田村学先生の講演を通して、子どもの学びの姿を通じた授業改善の大切さと、主体的・対話的で深い学びへ向けたポイントを考えました。

信州型UDリーダー 島津昌幸先生による国語の実践発表（上田市立城下小学校）

「追究意欲の高まらなかった児童に、課題設定の工夫と、立場の明確化を図る支援で働きかけた」
窓口：主体的・対話的で深い学びの実現

気にかけてKさんの姿、クラスの姿

- ・国語の物語文で、人物の心情を考えたり自分の考えを書いたりする活動に意欲をもてないKさん
- ・一部の子の発言だけで授業が進むことのあるクラス

「課題設定」や「立場の明確化」という工夫

新たな試みを生かした実践【大造じいさんとガン】

「絶対成功させたかった作戦ランキング」と「がっかりした作戦ランキング」を作り、心の動きを追う

◇ 学習カードから ◇

▷ 「絶対成功させたかった作戦ランキング」

第1位	おとりのガン	作戦
第2位	タニシでガンつり	作戦
第3位	タニシと鉄ぼう	作戦

▷ 「がっかりした作戦ランキング」

第1位	タニシと鉄ぼう	作戦
第2位	タニシでガンつり	作戦
第3位	おとりのガン	作戦

「絶対成功させたかったランキング」で1位だったおとりのガン作戦が、「がっかりした作戦ランキング」では3位になっており、結果にズレがあります。



「島津先生」

ランキングをつける課題に興味をもち、どの子も自分の考えを書くことができました。

2つのランキング結果にはズレがあることが視覚的にわかりました。その結果から、大造じいさんの心情をそのように捉えた理由について意見を発表し、心情曲線を用いて全体追究しながら、一人一人が自分の考えをまとめることができました。

クラスの子どもの姿を見つめ、授業の課題に気づくとともに、試行錯誤し編み出した新たな試みは、一人一人が自分の考えをもち、話し合いに参加する姿へつながりました。



田村学先生（國學院大学教授）講演会から

- ・一人で考えることには限界があるので、仲間と深めていくことは大切なことです。他者から教わり、自ら語ることで考えが整理されていきます。つまり、深い学びが生じてきます。
- ・物語の主人公の心情を捉えるときに、友達との会話の中で、教師が期待する取組に目が向くような対話となされるとともに、結果的に、他者とうまくやっていくことそのものへも目が向いていくような対話をどう構成するか、ということが問われてきます。偶発的ではなく、意図した方向へ話し合いが進むように構成していくことが問われてくると思います。
- ・主体的に学んでいる様子として見えている子どもの姿は、表面上のものか、意志的なものか、子どもが自覚しているか、目的を持っているか、などがポイントとなります。主体的とは「自分の学びをコントロール」するということです。

「その子の実態（困っている姿）」をとらえることが、教師の振り返りと授業改善への試行錯誤を後押しすると、改めて感じたフォーラムでした。

対話によって自分の考えが深まったと気づけるよう教師が働きかけることで、その気づきを基に、子どもたちが自ら学びを変えていける可能性も示唆されました。



R3 学校教育課主催の研修会等の予定 (※初任者対象を除く)

授業づくり学級づくり研修会 対象：臨時的任用教員及び希望者

期日	会場 (予定)
第1回 5月31日 (月) 第2回 7月20日 (火) 第3回 11月15日 (月) 第4回 1月14日 (金)	東信教育事務所

研究主任研修 対象：研究主任, ミドルリーダー等

期日	会場 (予定)
第1回 5月14日 (金) 第2回 8月27日 (金) 第3回 12月20日 (月)	東信教育事務所 またはオンライン

外国語・国際理解教育 対象：外国籍等児童生徒の指導に携わる担当者・学級担任等

研修会名	期日	会場 (予定)
外国籍等児童生徒指導研修会	第1回 6月7日 (月)	オンライン開催 (勤務校)
	第2回 日時未定	神川小学校

人権教育 対象：学校人権教育に携わる教職員・人権教育担当者等

研修会名	期日	会場 (予定)
学校人権教育研修・連絡協議会 (上小・佐久合同)	5月13日 (木)	佐久合同庁舎
学校人権教育研修・連絡協議会 (佐久)	10月21日 (木)	佐久合同庁舎
学校人権教育研修・連絡協議会 (上小)	11月2日 (火)	上田合同庁舎

初任者研修関係 対象：初任者配置校

研修会名	期日	会場 (予定)
初任研研修コーディネータ・指導教員等連絡会	4月15日 (木)	東信教育事務所
初任研研修コーディネータ・指導教員等研修会	7月8日 (木)	
初任研関係学校長等連絡協議会	2月15日 (火)	

不登校等・進路相談関係 対象：不登校傾向の中学生及び保護者

相談会・説明会名	期日	会場 (予定)
進路はれやか相談会	7月26日 (月)	佐久創錬センター
	7月27日 (火)	上田創造館
高校進学説明・相談会	11月1日 (月)	上田創造館
	11月4日 (木)	佐久創錬センター



社 会 教 育

子どもが育つ地域共育フォーラム（兼 学社連携・協働意見交換会）
10月20日（水）東御市中央公民館

全体講演【元長野県教育長の山口利幸さん】と分科会

学校支援コーディネーター研修会

12月6日（月）東信教育事務所

コーディネーターのレベルアップと情報交換



生涯スポーツ振興

東信地区クラブネットワークアクション

9月3日（金）東信教育事務所

子どもの地域スポーツクラブについて考えましょう

東信地区スポーツ指導者連携会議

10月29日（金）東信教育事務所

学校で行われている障がいのある子どもに対する支援に注目！



社会人権教育

東信地区人権教育研修会

6月24日（木）佐久市佐久平交流センター

全体講演【角谷美由紀さん：社会は変わってきた 盲導犬イリーとの生活から】と分科会

東信地区人権教育スキルアップ講座

7月27日（火）小海町「駅の待合室」（小海駅内）

誰ひとり取り残さない！学校や家庭以外の子ども・若者の居場所づくり



出前講座・学校訪問

通年 各学校へ出向きます

社会教育：学校と地域が目指す子ども像を共通理解できるように、地域学校協働活動や運営委員会・学校運営協議会へ訪問したり、学校の要望に応じて講座を開催したりします。

生涯スポーツ：運動あそびや体づくり運動、職員研修・親子レクPTA研修、体力・運動能力向上に関する実技指導、部活動運営委員会等、学校の要望にお応えして出前講座します。

社会人権教育：様々な人権課題に関する研修や参加体験型の人権学習、職員研修・PTA研修等、出前講座を学校の要望に応じて実施します。